< サンプル >

臨床修練用伝統医学データベースの構築

Construction of Fundamental Relational Database for training of Traditional medicine practice

関 隆志^{*1}

^{*1}東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター高齢者高次脳医学研究部門

Takashi Seki^{*1}

^{*1}Division of Geriatric Behavioral Neurology, Tohoku University CYRIC

【 緒言 】

伝統医学には複数の流派があり、初学者の臨床技術を高める際の障害となる。複数の流派の術語、証の定義、生薬・経穴の属性、方剤の構成生薬・適応証、配穴などを一覧することができれば、目の前の患者に対してより正確な診断、処方を行うことが可能になる。こうした一覧は諸流派の差違を明確にすることによりそれぞれの流派の治療方法をより適切に臨床に活かすことが可能となることが期待される。この一覧機能を持つシステムをデータベースソフトウェアにより構築し、各種文献に記載された情報をデータベース化する。当研究ではそのためのデータベースの骨格の試案を作成し、実用化の可否を検討する。

【 方法 】

一般的なコンピュータ OS 上で稼働し、タブレット、スマートフォンなどでも活用することができ、しかも比較的安価に市販されている、ファイルメーカー社 FileMaker Pro ver13.0 を用いて、リレーショナル・データベースとして構築する。

【 結果 】

生薬名、方剤名、経穴名、症状名、証名、病名の相互間のリレーションのあるリレーショナル・データベースを構築した。データを入力する文献として、『中薬大辞典』『中医臨床のための生薬学』『中医臨床のための方剤学』『中医臨床のための病機と治法』『鍼灸経穴辞典』『中医薬学高級双書 針灸学』『中医薬学高級双書 針灸治療学』『鍼灸取穴入門』『現代中国針灸配穴事典』『臨床経穴学』『常用兪穴臨床發揮』『中医症候鑑別診断学』『中医症状鑑別診断学』『中医弁証学』『症例から学ぶ和漢診療学』『高等中医院校教学参考叢書 中医診断学』『高等中医院校教学参考叢書 中医診断学』『高等中医院校教学参考叢書 中医耳鼻咽喉科学』『中医臨証備要』などをえらんだ。

【 考察 】

比較的安価なソフトウェアを用いても、伝統医学の臨床の診断・治療を支援する携帯型のデータベースシステムを構築することができることが示唆された。

キーワード：伝統医学、中医学、データベース、教育、タブレット端末

< サンプル >

入院中の COVID-19 感染により ADL が低下した患者への鍼治療

Acupuncture for a patient with declined ADL due to COVID-19 infection during hospitalization

三谷直哉^{*1}

^{*1}熊本赤十字病院 総合内科

Naoya Mitani^{*1}

^{*1}Japanese Red Cross Kumamoto Hospital Department of general internal medicine

【 緒言 】

COVID-19 感染は、入院患者の ADL 低下や入院期間の延長を引き起こす要因である。本症例は、入院中に COVID-19 に感染し、ADL が低下した患者に対して鍼治療を行い、効果が得られたため報告する。

【 症例 】

74 歳男性。1 か月前から続く倦怠感と、早朝発症した腰痛が徐々に増悪し体動困難となったため、X 年 3 月 4 日救急搬送され入院した。複雑性尿路感染症と診断され、抗菌薬加療を行った。入院後に摂食量が低下したため、X 年 3 月 15 日から補中益気湯を開始し一時的に摂食量が増加した。しかし、X 年 3 月 26 日に COVID-19 に感染し、再度摂食量が減少し、X 年 3 月 28 日から水様便になった。ニルマトレルビル/リトナビルで治療後も水様便が続き、食事や漢方薬も摂取できず、離床困難となり X 年 4 月 8 日に気陰両虚の診断に対して鍼治療を開始した。

【 治療・経過 】

鍼はセイリン（株）0.16 mm×40 mm 又は 0.12 mm×15 mm の毫鍼を使用し、健脾益気・補陰の治法で適宜選穴して治療を行った。リハビリでは 30m 歩行が可能になったが、水様便と摂食量は改善しなかった。X 年 4 月 18 日より腹部の陽気を高めるために三巡鍼法（中脘・下脘・水分・盲兪・天枢・大横・気海・石門・関元）を開始し、3 回目の施術後に水様便が普通便になり、治療を継続することで空腹感を訴えるようになり摂食量が増加した。X 年 5 月 1 日に食事全量摂取可能、リハビリでは病棟を歩行で周回できるようになり、X 年 5 月 2 日に転院した。

【 考察 】

本症例では、気陰両虚に対する治療が奏効しなかった。その理由として、長期入院で摂食ができず消耗した状態に、COVID-19 感染による邪正相争によって気虚が進行し、脾腎陽虚となっていたことが考えられる。三巡鍼法により腹部の陽気を高めたことで、脾胃を立て直し食事摂取が可能となり、食事から気血を生成することで ADL が向上したと考えられる。

キーワード：入院、COVID-19、鍼治療、三巡鍼法